

事業者等ヒアリング結果について

1 食品廃棄物の排出や取扱いの実態把握

(1) ヒアリング調査 22 件実施（平成 28 年 11 月時点）

ア. 食品関連事業者：13 件（食品製造業：5 件、食品小売業・外食業：6 件、その他：2 件）

○ 主な意見

- ・ 受け入れ先(リサイクル業者)がない。
- ・ リサイクル費用が高い。リサイクルに取り組むメリットがない。
- ・ リサイクルと廃棄の処理費用の差がなくなるよう、行政から再生利用事業者へ助成金があるといいと思うが、税金を助成金に使ってほしくない。
- ・ 生ごみの分別に手間がかかる。
- ・ 生ごみ処理機を使用しても、できた堆肥をどうすればよいかわからない、堆肥を使ってくれる農家が探すのが難しい。臭いが気になる。
- ・ 食品リサイクルを促進するため、行政に発信源になってもらいたい。

イ. 再生利用事業者・廃棄物処分業者：6 件

○ 主な意見

- ・ 自治体の処理費用がリサイクル費用より安いので、環境意識の高い事業者以外はリサイクルを選択しない。
- ・ 堆肥製造者には、堆肥が残ってしまうところが多い。
- ・ 食品リサイクルを促進するには、行政から食品リサイクル自体の周知や取組事例のPRが必要である。
- ・ 食品循環資源に対する消費者の認識を変えるため、行政からの協力がほしい。
- ・ 官公庁が積極的にリサイクル品を使うようにしてほしい。

ウ. 農畜産業者：2 件

○ 主な意見

- ・ 農畜産業者側の要望に再生利用事業者がどれだけ答えることができるかが課題
- ・ 小売業や外食産業からの廃棄物は組成が単一でなく、また、分別も徹底されないことが多いため、リサイクルに乗せるにはハードルが高い。

エ. 消費者団体：1 件

○ 主な意見

- ・ 食品関連事業者の取組を評価・PRして、消費行動に結びつける仕組みが必要。消費者も賢くならなければならない。
- ・ 提供する食事の量と料金を合わせれば、食べ残しは減るはず（シルバー料金の設定など）

(2) アンケート調査 13 件実施（9～10 月）

（一社）フランチャイズチェーン協会に対し、発生抑制やリサイクルの取組状況、課題、行政への要望等について質問を行った。（詳細は別紙）

○ 主な意見

- ・ リサイクル費用が高いので、加盟店の経費負担が大きく、リサイクルの店舗拡大が難しい。
- ・ 既に実施している店舗も、リサイクル費用の抑制が課題。
- ・ 受け入れ先（リサイクル業者）が少ない。

2 県内市町村との打ち合わせ会の開催

市町村における食品リサイクル等に係る取組み状況や今後の展望などを担当者間で意見交換を行うことを目的に開催

日時・場所：平成 28 年 9 月 1 日（木）15 時～ （県庁会議室）

参加市町村：政令 4 市（横浜市、川崎市、相模原市、横須賀市）、鎌倉市、小田原市、湯河原町
内 容：各市町村取組状況の発表と意見交換

○ 市町の意見

- ・家庭の食品ロスを削減するためには、普段から食材を無駄にしない行動の習慣化が必要である。
- ・外食業では、お客に無理に食べさせることはできないし、保健所から持ち帰りを止められることもあるので、消費者自身が食べ物を残さないという意識を持つ必要がある。
- ・リサイクル費用が高いので事業者はリサイクルをしようとしにくい。
- ・事業系ごみの処理手数料を値上げしたが、ごみの量が全く減らないので、受け入れ先（リサイクル業者）が少ないのが問題と思われる。
- ・外食業へは食べきりの協力など発生抑制の普及啓発を実施している。事業者に対して再生利用を促すこともあるが、受け入れ先が少ない状況では厳しい。
- ・事業者（幼稚園や小学校を含む。）による生ごみ処理機の設置は、メンテナンスや肥料の扱いに苦慮し、根付かない。